

環境改善を実施した林内ホダ場に伏せ込んだホダ木の 放射性物質濃度の変化 (1) — 伏せ込みから約1年半後の結果 —

1 はじめに

林内ホダ場における放射性物質の影響を明らかにするため、A₀層除去(以下「環境改善」)後のホダ場に放射性物質濃度(以下「濃度」)の低いホダ木(以下「代替ホダ木」)を伏せ込み、ホダ木内の濃度の変化を調べています(林業技術情報No.54、57)。今回は、新たに環境改善を行った林内ホダ場(No.60)で、伏せ込みから約1年半後のホダ木の濃度を測定しました。

平成24年6月に一関市内のスギ林へ伏せ込んだホダ木では(No.54)、伏せ込みから4か月後には、ホダ木の濃度が除去区でも10Bq/kg以上、増えています。単純に比較はできませんが、今回のホダ場では、放射性物質がホダ木の濃度に及ぼす影響は、放射性物質の崩壊(半減期)やA₀層から下方への移動などにより(No.59)、それぞれ低下している可能性があります。

2 調査方法と結果

【方法】平成24年11～12月に、一関市内のアカマツ林、スギ林、広葉樹林の3調査地に、40m四方のA₀層除去区と非除去区を設けました。同年12月に、代替ホダ木をヨロイ伏せで伏せ込みました。本数は除去区で75本、非除去区が225本です。平成26年6月に、各調査地で除去区から15本(うち、立て木(No.54)12本、横木3本)、非除去区から45本(うち、立て木36本、横木9本)のホダ木を回収し、濃度(含水率12%換算)を測定しました。このうち立て木は、上部と下部に分けました。また、平成25年4月に、代替ホダ木の一部を回収して濃度を測り、伏せ込み直後の濃度としました。



A₀層除去1年半後の試験地
(左: アカマツ林 右: スギ林)

【結果】いずれの試験地、処理区でも、濃度の平均値は50Bq/kg未満でした(図)。また、いずれも伏せ込み直後の値(図中の◇)を下回りました。

3 成果の活用

伏せ込み1年半後の時点では、ホダ木の濃度の上昇は認められませんでした。濃度は今後変化する可能性があります。引き続き、代替ホダ木や子実体の濃度を調査していく予定です。

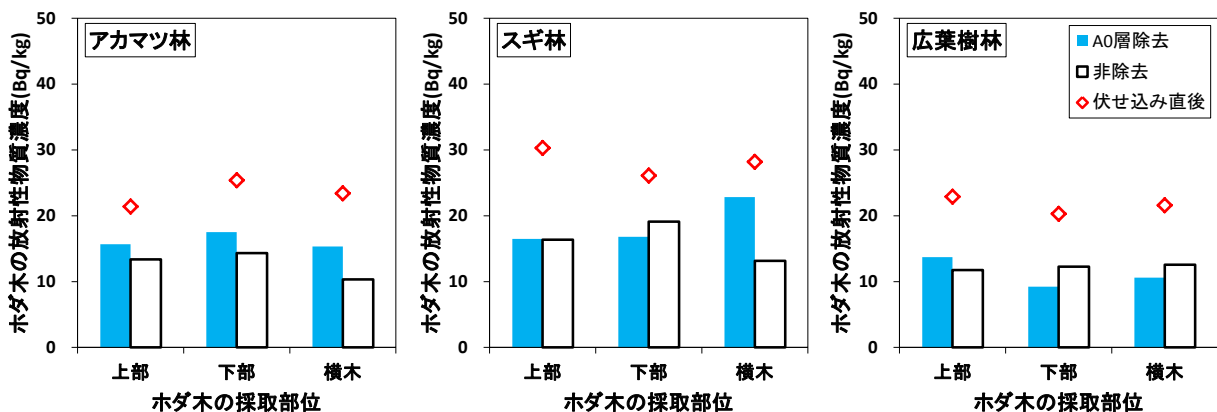


図 伏せ込み1年半後のホダ木の放射性物質濃度

(担当 研究部 主査専門研究員 成松 眞樹)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410